

★第21回定期総会
(書面決議)のお知らせ

例年6月に定期総会を開催していますが、2021年については、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面決議を行います。

「第21回定期総会資料」をお読みいただき、「書面表決書(官製葉書)」にご署名及び各議案への賛否をご記入の上、6月20日(日)までにご提出(投函)をお願いします。

なお、詳細は、同封の「第21回定期総会の開催(書面決議)について」をご覧ください。

●『設立20周年記念文集』発行に向けて
～会員みなさまに寄稿をお願いします～

白子川源流・水辺の会は本年6月3日、設立20周年を迎えます。節目の年に当たり、会員みなさまから寄稿を募って、記念文集を出したいと、下記のように企画しました。

テーマは「おらが川・おらが村」。文字数は自由。ぜひ、あなたの故郷の川やそれにまつわる思い出をご紹介ください。

この源流通信でリレー掲載中の「おらが川・おらが村」も参考にしてください。故郷の川では書きにくいという場合は、そこから離れて水辺の思い出や白子川との出会いなど、自由に書いていただいて構いません。**締め切りは7月31日(土)です。**

なお、寄稿の方法など、詳細は別紙をご覧ください。

2月～5月
活動記録

- 2/20(土) web“源流の森”研究会
- 21(日) WE LOVE 白子川の会
- 27(土) web運営会議
- 28(日) 定例活動(自主参加)

- 3/7(日) みどり広場にカエル池共同設置
- 13(土) web“源流の森”研究会
- 27(土) 運営会議
- 28(日) 定例活動(自主参加)

- 4/10(土) web“源流の森”研究会
- 18(日) WE LOVE 白子川の会
- 24(土) web運営会議
- 25(日) 定例活動(自主参加)

- 5/5(水) アユの放流、web運営会議
- 15(土) web“源流の森”研究会
- 16(日) WE LOVE 白子川の会、運営会議
- 23(日) 定例活動(自主参加)
- 24(月) 出前講演(富士見中学校)

これからの
活動予定

- 6/6(日) 一斉水質調査
- 12(土) web“源流の森”研究会
- 20(日) 第21回定期総会(書類による)
- 26(土) 運営会議
- 27(日) 定例活動◆

- 7/10(土) web“源流の森”研究会
- 18(日) WE LOVE 白子川の会
- 24(土) 運営会議
- 25(日) 定例活動◆

- 8/14(土) web“源流の森”研究会
- 15(日) WE LOVE 白子川の会
- 21(土) 運営会議
- 22(日) 定例活動◆

- 9/11(土) web“源流の森”研究会
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 25(土) 運営会議
- 26(日) 定例活動◆

◆白子川源流の定例活動

毎月第4日曜の午後1時30分からで、どなたでも参加できますが、今後の新型コロナウイルス感染状況により、中止とする場合があります。

編集後記

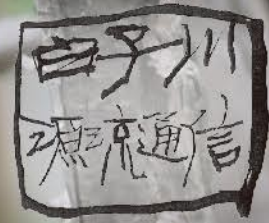
1年前の今頃は「来年の春にはコロナも落ち着いているだろう、それなら…」と、いろいろ計画を練っていたのを思い出します。現実にご存じの通り、ウィルスは変化し、感染率が高い変異種が次々現れ、4月末現在また緊急事態に。「元の生活」に戻れる保証はなくなったようです。

これは自然からの復讐だ、地球を破壊している人間への、という声もありますが、こんな時に私たちを慰めてくれるのも自然、どんな時も春になると花は咲き、鳥は鳴き、川は流れてくれる。だから、外に出よう、身近な自然を楽しもうと思います。気をつけねばならないことは多いけれど、コロナにかからないために生きてるわけではないのだから。(日)

発行 白子川源流・水辺の会
https://shirakogawa.tokyo/
編集 小川 郁/喜多 浩子/高宮 信三郎/
永井 薫/日高 美南子/松岡 直子
題字 宮本 沙海
発行部数 1,200部
共同代表 岡崎 一成/菅沢 博
事務局 練馬区南大泉1-10-5
03-3923-8430 菅沢 博



※この会報は年3回発行しています



シリーズ
水辺の鳥たち
◆エナガ

「尾羽が柄杓の柄のように長い」のがエナガという名前の由来のようです。とてもすばしっこく、なかなかレンズが追いつきません。メジロ、コゲラやシジュウカラと一緒に集団を組んで、時々白子川にも来ています。

この年は井頭公園の満開の桜の古木に巣をつくりましたが、抱卵中オナガに襲われ、残念ながらエナガ団子(雛が餌を待つ間10羽程度が団子状に小枝に止まる)は見られませんでした。(写真と文:新居和夫 2019年5月撮影)

2021年5月 第62号
「白子川源流・水辺の会」会報紙

白子川の春

春一番が吹くころ、アズマヒキガエルが産卵のため水辺に集まってきました。クエックエツと鳴きながらカエル合戦がはじまります。

続いて、ホトケドジョウが産卵をはじめ、2～3日で卵から孵化してかわいい小さな赤ちゃんドジョウが泳ぎまわります。そして、カメが冬眠からさめて川の中を歩きまわるようになり、カルガモが巣をつくって卵を産みます。

桜が満開になったころから、クチボソ、アブラハヤ、ギンブナなどが産卵をはじめます。カルガモのヒナが親鳥のあとをピョップピョップと鳴きながらおいかけ、かわいい姿が見られます。カワセミは恋の季節になり、オスがとった魚をメスにあげて求愛をします。

アシヤウキヤガラが芽を吹きだし、カワジシャやキショウブが花を咲かせます。



そして、白子川はたいへんにぎやかな川になります。

しかし、今年はちょっと様子が違います。ホトケドジョウはほとんど見かけません。クチボソやギンブナの姿もありません。かわって、異常なほどたくさんアメリカザリガニがいます。食べられる魚より、食べる側のザリガニの方が圧倒的に多い状況です。生き物のバランスが崩れていることが心配です。

美しい自然をいとおしく思う気持ちは人として自然なもの。いつまでも、美しい豊かな白子川と暮らしていきたい、そのような水辺の会の活動でありたいと思います。

(岡崎一成)



画・萩原和雄

